

TIME TABLE

11/4 (sun)	
10:00- マルシェ オープン	10:00- マルシェ オープン
11:00-12:15 土にかえる	11:00-12:15 土にかえる
11/3 (sat)	12:25-13:56 スーパー ローカルヒーロー
13:00- マルシェ オープン	14:00-15:55 カンタ！ティモール
14:00-15:55 カンタ！ティモール	14:05-15:50 はるねこ
16:05-17:40 私にいたる道	16:00-17:35 私にいたる道
17:50-19:02 土にかえる	17:45-18:30 トークセッション 高知で映画を作る事とは
19:15-21:00 はるねこ	懇親会

STANDS

トコトコ屋
11/3 (sat) 11/4 (sun)



身近な食材を使い食べた人が幸せになるようなものを、お出します！

ちいさな古本屋さん
11/3 (sat) 11/4 (sun)



巡り巡ってやってきた古い本たち
あなたのお気に入り、見つけてみませんか。

藍と生
11/3 (sat) 11/4 (sun)



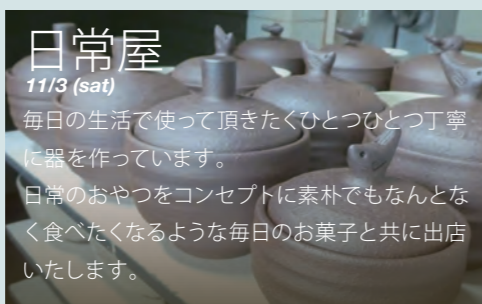
藍と生の服や小物は「まっすぐ」だけでできています。藍染と生成りの布から生まれたものたちです。

Cona-Cafe
11/3 (sat) 11/4 (sun)



国産小麦粉や、きび砂糖、太白胡麻油などを使い、心と体に優しい、みんなが笑顔になれるお菓子作りを目指しています。

日常屋
11/3 (sat)



毎日の生活で使って頂きたいひとつひとつ丁寧に器を作っています。
日常のおやつをコンセプトに素材でもなんとなく食べたいような毎日のお菓子と共に来店いたします。

PECO
11/3 (sat)



パンとおやつを主に高知県産の素材を使い、のんびりゆったり作っています。
マイペースでがんばります。

maito
11/4 (sun)



イラスト・小物雑貨
絵描きの雑貨屋です。日々の中でいいなあと
思った景色や色、こんなのあったらいいなという
妄想を作品にしています。

CHEROKEE
11/3 (sat) 11/4 (sun)



グッドミュージックとおふくろの味。
家庭料理も楽しめる須崎唯一のライブハウス。

チケット：前売 1,500 円 (当日 1,800 円) 1 日限り有効、1 枚につき 2 作品まで鑑賞できます。

2 日間共通フリーパス：前売 3,000 円 (当日 3,500 円) 全作品を鑑賞できます。*高校生以下無料

チケット販売所：すさきまちかどギャラリー 〒785-0004 高知県須崎市青木町 1-16 TEL 050-8803-8668 (前売チケットの電話予約可)
古民家カフェ半平 〒786-0004 高知県高岡郡四万十町茂串町 2-3 TEL 050-8807-5075



住所：高知県須崎市西糺町 4-18
(ライフトOWN YUTAKA 駐車場八店会内)
主催：すさきまちかどギャラリー
電話：050-8803-8668
machikado-gallery.com

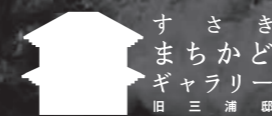


高知の若手映画監督特集

高知で活動する、期待の若手映画監督の作品特集企画！

甫木元空（欧州 3 カ国の映画祭へ出品、青山真治プロデュースの「はるねこ」、村井洋平（満州開拓団の歴史を次世代へつなげる劇映画「私にいたる道」、志和樹果（全国で上映の旅を続ける「土にかえる」）の 3 名が集結。上映後はトークショー「地域で映画を作るということとは」を開催。食べ物、雑貨などものづくりマルシェも同時開催。話題の地域映画「カンタ！ティモール」、「スーパーローカルヒーロー」もゲスト上映します。

presented by



2018/11/ 3 (sat) 13:00-21:00
4 (sun) 10:00-18:30



高知の若手映画監督特集



はるねこ



土にかえる

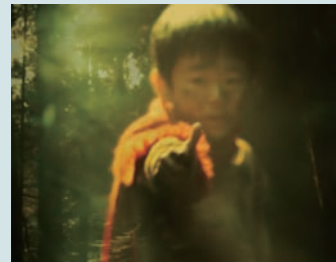


私にいたる道

はるねこ

11/3 19:15 11/4 14:05

2016年 85分 監督: 甫木元空
出演: 山本圭祐、岩田龍門、赤塚実奈子、川合ロン、高橋洋、川瀬陽太、リリィ、田中泯



山深い森に一軒の喫茶店。その店に訪れる客は皆、死に場所を求めてたどり着く。近づく戦争の音に慄きながら、店長は客たちを森に導き、音に変える。争い続ける人間たちと、歌い続ける森たちの音楽劇。『EUREKA』の青山真治が長編

映画の初プロデュースを担当した。

甫木元空
多摩美術大学映像演劇学科卒業。在学中教授であった青山真治監督から映画に触れ、山本政志監督や橋口亮 輔監督などの助監督を務める。2016年長編映画デビュー作「はるねこ」が全国公開。ロッテルダム国際映画祭など複数の映画祭に招待される。

土にかえる

11/3 17:50 11/4 11:00

2017年 52分 監督: 志和樹果
出演: 佐伯美波、イワモトジロウ、吉本竜、村井まな、油田岳、志和誠子、天楽もく



遍路中のさつきが道で倒れていたところを助けられ、クセの強い人たちと変わった古い家で過ごす四日間。不器用な大人たちのリアルな日常生活とファンタジーが、四国の山奥で繰り広げられる。独特な人々の言動に考え、笑うエンターテインメント。

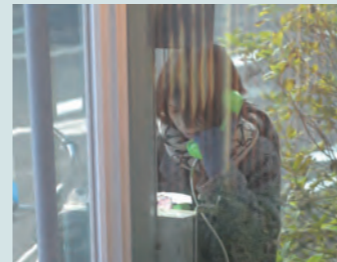
演じるのは東京からの若手女優 佐伯美波と、個性豊かな高知、愛媛の実際の住民たち。彼らがテーマ曲「土にかえる」(詞・牧瀬茜 曲・大体バンド) や、マントラ、幡多弁ブルースなどの挿入曲も演奏する。

志和樹果
高知県の足摺半島で育ち、音楽の道へ進む。15歳で一人旅を初め、バスキングやライブをし、27カ国を旅する。高知の森の中での暮らしのうちに結成されたロックバンド、GREAT SPIRITの4人でアメリカを横断。その模様を収めたドキュメンタリー映画「日常と長い夜」を製作して以来、映画製作に没頭するようになり、映画美学校へ入学。2017年11月に初の中編フィクション映画「土にかえる」を公開し、全国で上映の旅をしている。

わたしにいたる道

11/3 16:05 11/4 16:00

2018年 72分 監督: 村井洋平
出演: 利根川真夏、秋田和、白石伸吾、鶴田太路、志和誠子、斧山浩士



高知の満州開拓団の歴史と残留孤児問題をテーマに、今を生きる孫世代を主人公にした劇映画。満州孤児3世である主人公ひなたは、祖父の死をきっかけに、家族の境遇に興味を持つようになる。日本語を話せない父、彼氏からの突然の別れ、自分に残る歴史の爪痕を知り、それに立ち向かっていくのだった。

村井洋平
千葉県出身、筑波大学生物資源学類卒業。大学で農村社会学を学んだことから、田舎暮らしを求めて高知に移住。田舎でできるナリワイをつくるため、音楽修行で世界をめぐり、同時に映像作品を作り始める。2016年地域ファンディングを募り、バンドのアメリカ横断ツアーと同時にドキュメンタリー映画「日常と長い夜」を制作する。2018年高知県芸術祭にて「私にいたる道」を監督した。その他、ネットラジオ「歩く魚ラジオ」ディレクター、オルタ WoodDesign 代表を務める。

トークセッション

「高知で映画を作ることとは」

11/4 17:45

パネリスト: 甫木元空、志和樹果、村井洋平

今回は高知に住む3人の若手映画監督特集ということで、一人目は窪川に在住の甫木元監督。映画「はるねこ」では生まれ育った土地、埼玉県越生町を舞台に映画を製作。次回作も自身のルーツを撮影、映画製作を行うため、お祖父さんが住んでいる窪川に移住してきました。二人目は志和監督、土佐清水で育ち、世界を旅したのち東京の映画美学校で映像制作を学び、大月町で「土にかえる」を製作しました。3人目は千葉出身の村井監督、西土佐に移住した後、木工を生業とする傍ら、映画作りをやりたいという熱意のもと「私にいたる道」を作りました。三者三様の若手映画監督が今、高知で暮らし、高知で、地方で、映画を作るということをどう捉えているのか、互いの思いを語ってもらいます。



カンタ！ティモール

ゲスト上映 11/3 14:00

2012年 110分 監督: 広田奈津子
出演: ヘルデル・アレキソ・ロベス、レオナルド・ソアレス、カイ・ララ・シャナナ・グスマン

舞台は南海に浮かぶ神々の島、ティモール。ひとつの歌から始まった運命の旅が、音楽あふれるドキュメンタリー映画となった。この島を襲った悲劇と、それを生き抜いた奇跡の人びと。その姿が、世界に希望の光を投げかける。

当時23歳だった日本人女性監督は、人びととの暮らしの中で現地語を学び、彼らの歌に隠された本当の意味に触れてゆく。そして出会う、光をたたえるまなざし。詩のようにつむがれる言葉の数々。それは観る者の胸をそと貫き、決して消えない余韻となる。

日本が深く関わりながら、ほとんど報道されなかった東ティモールの闘いをとりあげた、国内初の長編。自主映画ながらも感動は国境を超え、5カ国100ヶ所以上の試写会で会場が心を震わせた、愛すべきエチュード。



スーパーローカルヒーロー

ゲスト上映 11/4 12:25

2014年 91分 監督: 田中トシノリ
出演: 信恵勝彦、EGO-WRAPPIN'、二階堂和美

「ノブエさん」は「おじさん」である。西日本の小さな街広島県尾道市で、風変わりなCDショップ「れいこう堂」を営んでいる。身銭を切りながら多くのインディーズミュージシャンをライブに呼び続けた、情熱の人。

「動かなければ何も伝わらない」「一人でもやる」。感じたら、とにかく行動するのだ。店はほったらかしで西へ東へ。子ども達のため、音楽のため、目の前の大切なコトのために。走り回るノブエさんを気遣い、感化され、それぞれがまた彼の支えになる。その小さな力の集まりが、いくつもの無謀なチャレンジを成功させてきた。音楽と人が、人と人が、型破りでどこまでも温かいノブエさんの「ライブ」でつながり、弧を描き出すのだ。

「このおじさんを知ってほしい」。撮り手である監督の素直な思いと視線は、ノブエさんを追いながら日本の今をも気負うことなく浮き彫りにする。そして本物のヒーローの居場所へと、観るものを導いていく。誰もが誰かのヒーローになれば…。一人のおじさんの記録が今、僕らの明日を予感させる物語になる。